

# 随泉寺寺報

2001 年 7 月号  
第 371 号

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺  
安居会法座  
講師 妙覚寺住職 長坂 大然師  
講題 「しあわせをもとめて」

一日降っただけでも、うんざりする雨。そのくせ人は雨に思いを託し、いろんな詩をうたいます。

それは湯ききったこの世の中に、せめてもの潤いが欲しいと願うからでしょうか。幼い頃うたった 雨、雨ふれふれ、母さんが、蛇の目でお迎え、うれしいな。ピチピチ、チャブチャブ、ランランランという童謡を思い出します。傘を持って迎えに来てくれた母・…。時代がドライになればなるほど、こんな情景が懐かしくなるのかもしれない。だから人生の寂しさや、やるせなさは、あたかも私たちの心の中に降りしきる雨。誰かがそっと傘を差しかけてくれるのを待っているのです。そんな時、出会った人の情けは身にしみます。すぶ濡れで冷えきった体に、ぬくもりが戻ってくるように「生きていてよかった」という温かい感動が甦って来ます。ひょっとしたら私たちは、こんな心のふれあいを知るために、この世に生を受けているのかもしれないのです。無情の雨というなかれ。それは時として乾天の慈雨となることもあるのですから。

## 7月の法座予定

7月14日昼席午後1時より……安居会法座  
7月14日夜席午後8時より……出張法座 西長者原（集会所）  
7月15日朝席午前10時より……若婦研修会・安居会法座  
7月15日昼席午後1時より……安居会法座  
7月19日午後6時より……随泉寺ビアガーデン  
7月23日（月）～24日（火）…少年少女の集い・一日研修会

## お知らせ

### きれいになった庭でビールを飲んで暑さを吹き飛ばす会 随泉寺ビアガーデン

7月19日 木 午後6時より（雨天決行）

今年は梅雨が本格的で集中豪雨があったり、長雨だったりして、うっとうしい日々がつづいていました。こんな時はパーとビールでも飲んで、気分を変えて、元気を出したいと思います。随泉寺も綺麗になって、庭も整備されたので、夕涼みがてらにお出かけ下さい。住職継職法要や法座の時にお参りして下さった方は、きれいになった随泉寺を見て下さいましたが、まだ修復後は見た事がないという方も多いようなので、是非お越し下さい。お寺は門信徒の皆さんのものです。自分の親の家がきれいになったので観に行く気分で、ビールを飲みに来て下さい。愉快地飲んで暑さを吹き飛ばしましょう。

会費 1000円です。

お願い 畑に夏野菜がありましたら、少し下さい。

ジャガイモ、たまねぎ、キャベツ、きゅうり、なす、枝豆、とうもろこし、ピーマン、獅子唐辛子等々。

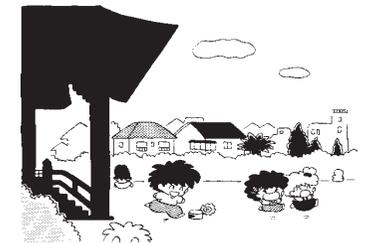
6月21日 木 灯茶会（灯火を観てお茶を飲む会）

はじめての行事でしたが、なかなかよかったと自己満足しています。参加者は40名ぐらいでしたが、100あまりの灯火は幻想的で、まるでよその庭を観ているようでした。灯火を見ながら、亡くなったひとを思い出しておられる方、自分の歩いてきて道を回想しておられる方、思い、思いに灯火を見つめられていました。来年もする予定ですから、又参加して下さい。

### 少年少女の集い（7月23～24日）・一日研修会（7月24日）

小学4年生～6年生まで と小学1年～3年

今年も夏の一泊研修会と一日研修会を行います。2年間本堂工事のためお休みしていましたが、本堂も綺麗になったので再開します。友達と誘い合わせて参加して下さい。楽しい企画をいろいろ考えています。



## 「川の流れるように」

秋元康作詞・見岳章作曲

知らず知らず 歩いてきた 細く長い この道 振り返れば 遥か遠く  
故郷（ふるさと）が見える でこぼこ道や 曲がりくねった道  
地図さえない それもまた人生 ああ 川の流れるように ゆるやかに  
いくつも 時代は過ぎて ああ 川の流れるように とめどなく  
空が黄昏（たそがれ）に 染まるだけ  
生きることは 旅すること 終わりのない この道 愛する人 そばに連れて  
夢 探しながら 雨に降られて ぬかるんだ道でも いつかは また 晴れる日  
が来るから ああ 川の流れるように おだやかに この身を まかせていたい  
ああ 川の流れるように 移り行く 季節 雪どけを待ちながら

6月24日は美空ひばりさんの13回忌でした。もうそんなに時間が過ぎてしまったのかという感じでした。ついこのあいだ亡くなったような気がしていましたが……。本人は亡くなくても、歌は歌い続けられるからでしょうか。上記の歌は美空ひばりさんの晩年のヒット曲です。私も好きな歌の一つです。

人生は川の流れるようなもの、その流れに身を任せて、おだやかに生きて行きたい。 生きることは旅すること、愛する人とともに、身をまかせて生きて行きたい。

まさしくそのとおりです。しかし、川の流れに身をまかせ生きるだけならば、それは流されただけということになります。川の最後は海に注ぎ込むのです。行き先のはっきりしない旅は放浪です。私の行き先がどこなのか、私の帰るところはどこかという事がはっきりして、 はじめて旅を楽しむ事が出来るのです。身を任せていけるのです。

私の人生の最後の目的それはいのちの帰るところ、  
真実のふるさと、それを浄土というのです。すべての川の流れこむところ、それは海です。ですから親鸞聖人はお浄土のことを海にたとえて、『真実海』『本願海』

『大寶海』とお示し下さいました。私のいのちの帰る処がハッキリしたら、  
川の流れるように この身をまかせて 生きていけるのです。



## ビハラーマインド

### こころの不安を和らげる

「痛みが取れてくると、いろいろ考えはじめるのが人間ね。これから自分はどんなになってしまうの…。いいしれぬ不安が胸をおそってくる。どうして私がこんな目に…。ときには怒りさえこみ上げてくる。そうした私のなかのつらい気持ちを、あるとき、たまらず口にした。不治の病、言葉では聞いた事のある その病が、まさかこの自分を襲ってくるなんて…。もうその言葉を聞いただけで、今までの自分とはまるきり違った存在になったように思えて、悲しみが満ちてくる…。どうしたらその悲しみは、やわらぐのでしょうか…。」  
あなたの抱えている、不安や悲しみの重荷を、代って背負う事は出来ないけれど、一緒に考える事は、出来ます。そばにいることは出来ます。そしてその悲しむあなたを、そのまま包みこんで抱きしめてくださる、大きなお慈悲が阿弥陀様の本願です。

### 穏やかな家族の顔が、私をなごませる

なにげない顔をしていても、どこかにいつも不安を抱えているのは、家族も同じ。私にはちょっと言えないようなこともあって、こころはきっと重くなっている。ときにはそんな家族に代って、私のそばにいてくれたり、私にするのと同じように家族を気づかい、相談にのってくれる人がいたなら…。おだやかになった家族のこころも和んでくる。（あるガン患者のひとり言）

### 家族の不安にも耳を傾ける

ガン患者の家族や、大切な人は、痛みや不安、悲しみと寂しさを抱えながら、病と向き合っている本人の重いこころを少しでも軽くしてあげるには、どうすればよいのかを日夜考え、そして悩んでいます。それゆえ病人を支える人達が、逆に援助を必要とする旅人に、なってしまう事もあります。そんな時その家族の不安、恐れ、そしてなやみなどの気持ちを、ともに寄り添い聞いてくれる人がいたなら、どんなにこころが軽くなるでしょう。そしてその悲しむ私を、そのまま受けとめてくださる、大きなお慈悲のあることにきずかされたら、大きな安らぎとなることでしょう。

